

視 察 報 告 書

調査・研究 テーマ	特別支援学校の現状について
目 的	市内の子どもたちが通っている埼玉県の特設支援学校を視察し、当事者からヒアリングを行う
内 容	<p>日 時：2021年5月17日（月） 10時00分～12時00分</p> <p>視察先：埼玉県立大宮北特別支援学校</p> <p>説明者： 同 校長：山口 信一郎 氏 同 P T A会長：齊藤 真吾 氏 上尾かしの木学園P T A会長：秋葉 喜代子 氏</p> <p>参加者：阪本 克己、三神 尊志、小川 寿士、富田かおり、 佐伯加寿美、出雲 圭子、松本 翔</p> <p>報告書作成者：三神 尊志</p> <div style="text-align: center;">  </div>
概 要	<p>校長室にてお話を伺い、その後校内を見学させていただく。</p> <p>・平成22年に上尾かしの木が設立されて生徒数は一旦176名まで落ち着いたものの、徐々に人数が増えていき令和3年度は生徒数318人、教職員130人ほどで設立以来最大規模で運営されている。生徒は100%さいたま市の子どもたちで、市の西半分の全てを受け入れている。その結果、調理室や図書室、トランポリンやボールプールがあったホールも今は教室にせざるを得なくなった。図書は廊下に書架を設けている状態。</p>

<p>概要</p>	<p>またホールも様々な特性をもつ子どもたちにとっては大切なスペースだったが代替となる場所はない。増加する生徒数に対応するため、特別教室その他の利用できるスペースを全て教室に転用している状況。</p> <p>職員室も過密状態で、玄関のちょっとしたスペースも話し合いができるように椅子やパーテーションを置いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在バスが停車している辺りに敷地を広げる計画はある。 ・教員の確保も課題で、特別支援学校の教員免許を持っている割合は、さいたま市は全国（30%）より高いが、より免許をとりにやすくしてほしい。 ・タブレット端末については使い方によっては生徒の学びにとっても有益である。 
<p>所感</p>	<p>生徒の増加が続いており、設計時に想定されていた定員を大きく超過している。教育を行う場として、様々な不都合が発生していることを目の当たりにした。</p> <p>知的障害児のための市立の特別支援学校の設置が急務であると考えている。</p>
<p>基本政策</p>	<p>5. 社会全体で子育てを支えるまち</p>
<p>参考</p>	<p>【2021年2月定例会】代表質問：神崎 功 「インクルーシブ教育に関する研修の充実と人材育成環境、県と連携した知的障害児の特別支援学校等教育環境の充実について」</p>